

2.3 委員会活動報告

2.3.1	理学部教務委員会 . . .	105
2.3.2	理学部教務委員会 教育改善部会 . . .	106
2.3.3	理学部教務委員会 教育実施部会 . . .	108
2.3.4	理学部広報委員会 高大連携部会 . . .	110
2.3.5	理学部広報委員会 情報・広報部会 . . .	112
2.3.6	理学部入試委員会 . . .	113
2.3.7	理学部就職指導委員会 . . .	114
2.3.8	理学部学生生活委員会 . . .	115
2.3.9	理学部国際交流委員会 . . .	117
2.3.10	理工学教育部修士課程理学領域部会教育委員会 . . .	119

2.3.1 理学部教務委員会

教務委員会委員長 桑井智彦

1. 委員会開催日

4月19日に開催した。.

2. 令和5年度に検討、実施した事項

・理学部教務委員会内規改正について

理学部教務委員会内規改正について提案があり、審議の結果、原案通り了承され、次回教授会に付議することとした。

・令和5年度前期 TOEIC 英語 e-ラーニングについて

令和5年度前期の TOEIC 英語 e-ラーニングの実施について今年度はオンライン授業となる旨の説明があり、教務委員会委員が担当教員となっているので、各委員の先生方に授業に参加することとした。

・令和6年度理学部改組に伴う、再履修方法について

令和6年度理学部改組に伴い、単位を修得できなかった学生の再履修方法について、各学科で検討するよう連絡がなされた。併せて成績下位学生の指導やフォローを検討するよう要請した。

2.3.2 理学部教務委員会 教育改善部会

教育改善部会長 桑井智彦

1. 部会開催日

5月23日(第1回), 7月31日(第2回), 8月29日(第3回), 12月1日(第4回), 29日(第5回)の計5回開催した。

2. 令和5年度に検討, 実施した事項

(1) 教育実習事前指導での対策について

教育実習事前指導での対策について、令和4年度に挙げた教育実習時のインシデント内容を踏まえて、あらたに作成された誓約書への記載事項案、および関連事項が検討された。

(2) 令和6年度学年暦について

令和6年度学年暦について提案があり、検討を行った。

そのうち、10月18日(金)を月曜授業、3連休週明けの1月14日(火)を金曜授業とした場合、週明けに週末と同じ科目の授業を行うことになり、該当科目の教員に負担がかかるのではないかとといった意見があり、上記懸念事項・意見の回答時に併せて学務部へ意見を提示した。

(3) 令和4年度卒業時調査について

令和4年度卒業時調査の集計を実施した結果について各学科資料を共有し、活用願いたい旨依頼した。

(4) アクティブ・ラーニング型授業の実施割合について

アクティブ・ラーニング型授業実施状況が周知され、全授業のうち6割以上を該当の授業とする目標は達成しているものの、他学部にくらべ理学部の実施割合が低いことから、該当する科目であるにも関わらず、「実施なし」としている場合があると推測されるため、各学科へこの旨を周知するよう依頼した。

(5) 履修のしおりについて

令和6年度より新学部・新学科となるため履修のしおりの全面改定が必要となることを受け3月中旬までに作成を行った。

(6) 令和5年度メディア授業推進デーの実施について

12月末と令和6年1月初旬に実施日のオンデマンド型授業行うよう担当教員への依頼を行った。

(7) TOEIC 英語 e-ラーニングの単位認定について

条件をすべて満たした学生に対し単位認定を行った。

(8) TOEIC IP テストの成績優秀者・優良者に対する学部長表彰について

年2回の理学部および教養教育院(後期のみ)で実施したTOEIC IPテストの成績優秀者および優良者の学部長表彰を実施した。

(9) 令和6年度に向けたTOEIC e-ラーニングの実施計画について

令和6年度に向けたTOEIC e-ラーニングの実施計画についてを検討した。さらに協力企業のアルクエデュケーションによる、学習効果に関するインタビューに応じた。

(10) FD研修会の開催について

以下のようにFD研修会を開催した。

- ・日 時 令和5年11月8日(水) 13:15～13:45
- ・場 所 オンライン (teams) 開催
- ・主 催 理学部教務委員会・理工学教育部修士課程(理学領域)教育委員会
- ・講 師 教育・学生支援企画室 准教授 松本 馨 先生
- ・テーマ ChatGPTの現状と性能評価の試行

2.3.3 理学部教務委員会 教育実施部会

教育実施部会部会長 唐原一郎

1. 部会開催日

5月10日（第1回）、7月5日（第2回）、9月27日（第3回）
11月1日（第4回）、12月22日（第5回）、2月15日（第6回）
3月14日（第7回）

2. 令和5年度に審議・検討、実施した事項

（1）授業時間割（案）の作成

令和5年度後学期授業時間割および令和5年度前学期・後学期授業時間割（案）について、各学科で作成した時間割案をとりまとめて審議し、教授会に付議した。

（2）既修得単位、大学以外の教育施設等における学修および他大学における単位認定

第3年次編入学生の既修得単位の認定、実用英語技能検定・TOEIC IP の成績等に基づく単位の認定、海外短期語学研修における単位の認定、大学コンソーシアム富山単位互換科目（他大学開講）の単位認定について審議し、教授会に付議した。

（3）観察実験アシスタント業務における単位認定

観察実験アシスタント業務において、所定の時間以上の勤務実績がある学生13名に対しての単位認定を審議し、教授会に付議した。

（4）サイエンスメディエーターの認定について

科学コミュニケーション修得者は5名おり、呼びかけたが、本年度は応募がなかった。

（5）令和5年度前学期理学部 TOEIC IP テストの表彰について

7月に実施した理学部 TOEIC IP テストの成績優秀者の表彰について審議し、対象学生を選定した。

（6）令和5年度前学期 TOEIC 英語 e-ラーニングの単位認定について

令和4年度前学期の TOEIC 英語 e-ラーニングの単位認定について審議し、従来の基準に従い対象学生を選定した。

（7）令和5年度教育実習事前・事後指導について

令和5年度教育実習に係り、事前指導および事後指導について、学科輪番により本年度は物理学科の教務委員が担当し、4月26日および12月20日に実施した。

（8）5大学理学部連携単位互換制度の単位認定について

5大学理学部連携単位について、これまでは実地派遣のみだったが、遠隔のものも認められることになり、信州大からの提供があった科目に2名が申請し派遣を認めた。

（9）教職実践演習の最終評価と教職課程認定変更届けについて

教職実践演習の最終評価を教務委員が担当した。また、各学科での教職課程認定変更内容について精査し、届出書類を確認した。

（10）令和6年度授業日程（案）の審議

令和5年度授業日程のうち理学部補講日について審議し、教授会に付議した。

（11）令和6年度新入生行事日程

令和5年度新入生行事日程について審議し、教授会に付議した。

（12）理学部第3年次編入学生等の既修得単位の取扱いに関する申合せの改正

理学部第3年次編入学生等の既修得単位の取扱いに関する申合せの改正について審議し、学科長会議及び教授会に付議した。

（13）富山大学、金沢大学及び福井大学における数理・データサイエンス・AIに関する授業科目の単位認定について

富山大学、金沢大学及び福井大学における数理・データサイエンス・AI に関する授業科目の単位認定について審議し、自由選択科目として認定することを教授会に付議した。

(1 4) 理学部における履修登録単位数の上限に関する内規の改正

令和 6 年度の学部再編に向けて変更が必要な、第一年次の学年別上限単位数について、56/年間のうち前学期を 29、後学期を 27 とすることについて審議し、教授会に付議した。

(1 5) 令和 6 年度過年度生用開講科目について

令和 6 年度の学部再編に向けて必要な、当該科目の実施方法について審議し、教授会に付議した。

(1 6) 理学部履修のしおり

令和 6 年度の学部再編に向けて変更が必要な、関連規則や教員免許状・学芸員についての改正・修正を審議し、教授会に付議した。

(1 7) 令和 6 年度メディア授業科目の設定について

令和 6 年度から設けられた当該科目として申請のあった科目を審議し、教授会に付議した。

2.3.4 理学部広報委員会 高大連携部会

広報委員会委員長 高大連携部会長 青木 一真

1. 2023 年度の全般の広報活動について

2023 年度の全般の活動は、新型コロナウイルスによる移動制限が解除され、活動の制限や様々な制約がなくなったが、引き続き、本来の広報活動に戻ってはいない状況である。ただし、感染予防対策を万全に、高大連携事業を行った。

2. 高等学校生徒・保護者の理学部訪問

高等学校からの理学部訪問数は5校（県内4校，県外1校）であり，昨年より激減した．いずれも理学部校舎で行った．高校生の訪問の場合には事前に模擬授業，施設見学，もしくは双方の希望の連絡があるため，それぞれの希望に合わせて実施した．高校からの理学部訪問は6月から8月までの間に行われた．

3. 高等学校訪問

富山県，福井県，岐阜県，長野県内の10高等学校を訪問もしくは，オンラインで理学部の紹介または模擬授業を兼ねた理学部紹介を行った．高等学校での希望が模擬授業であっても，模擬授業と理学部紹介の双方を希望している場合が多いため，模擬授業の依頼であっても理学部紹介も行うようにした．これまでと同じく対象学年は主に1,2年であった．なお一部の高等学校では複数学年が混在していた．また，高校訪問の依頼は4月から11月までの間に行われたが，入試時期にも依頼があり，その際は業務に支障が出るためお断りした．

4. 探究科学科等の課題研究への協力

富山県内の探究科学科設置校である富山中部，富山，高岡の3高等学校，県内の高岡南高校，富山東高等学校，氷見高等学校，砺波高等学校，北信越地区高等学校自然科学部の課題研究に協力した．また，2022年度より富山県高等学校自然科学部向けに，課題研究にむけてた講習会を今年度も行った．

課題研究指導

富山中部高等学校に教員4名，富山高等学校に4名，高岡高等学校に教員3名，氷見高等学校に教員1名，富山東高等学校に教員6名，高岡南高等学校に教員3名，砺波高等学校に教員1名，北信越地区高等学校自然科学部に教員1名が課題研究の指導または発表会の講評に協力した．富山中部高等学校，富山高等学校，それに高岡高等学校とは派遣教員希望数および課題研究の内容の提示があったため，学部内で課題研究テーマに専門に近い教員へ依頼した．

5. オープンキャンパス

オープンキャンパスは，2023年8月5日に理学部校舎で対面開催となった．高校生にわかりやすい学部・学科説明を行うために，ウェブにより動画も公開した．

6. 氷見ラボでの教育活動

ひみラボにおいて，大阪高校生を対象とした「富山研究合宿」を開催した（高校生対象：3月29～30日）．

7. 社会教育関係職員の研修活動を支援・サポートして地域との連携をはかる

氷見市イタセンパラ保護活用指導委員会委員として，研修活動を専門的な立場から教員1名が支援・サポートを行った．

8. 次年度の探究科学科との連携

探究科学科設置3高等学校との間で次年度の高大連携について意見交換を行い，高等学校から提出された計画書に基づいて，派遣要請教員の分担を理学部，工学部，都市デザイン学部との間で協議を行う

予定である。

9. 「りっか」の発行

理学部後援会会報「りっか」第 19 号の編集を，広報委員長，理工系総務課，「科学コミュニケーション」担当の川部達哉准教授，島田互准教授，それに能登印刷の担当者，インタビュアーの連携で行った。

10. その他

- ・富山県では SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に富山中部高等学校・探究科学科が指定されている。その運営指導員として教員 1 名が協力した。
- ・富山東高等学校の運営指導評議会委員として教員 1 名が協力した。

2.3.5 理学部広報委員会 情報・広報部会

広報委員会 情報・広報部会長 秋山正和

1. 理学部案内（スペクトラ）の作成（資料1 参照）

令和5年度理学部案内（スペクトラ 2024）を作成した。今年度は改組のため、大幅な刷新を行った。発行部数を3,000部として発注し、7月下旬に納品された。理学部案内は、高校訪問や出前講義などで配布するとともに、理学部のウェブページにて閲覧できるように、電子ブック版及びPDF版を公開した。

令和6年度理学部案内に関する検討を行い、印刷部数や納品時期を決定した。

2. 理学部ホームページの更新・改訂

- 改組に伴いホームページのリニューアル作業を行い、1月下旬に完了した。新ホームページは令和6年度に公開される予定である。
- サーバに関する検討を行い、個人や学科のHPを新しいサーバ移行するように手配した。
- イベント、受賞、講演会などに関する情報を随時発信し、「トピックス」では理学部で行われている研究内容（3件）を紹介した。
 - 研究紹介動画（数学科2本、物理学科0本、化学科1本、生物学科2本、自然環境科学科1本）を作成した。
 - 施設紹介動画（ひみラボ1本）を作成した。
- 理学部ホームページや富山大学理学部公式YouTubeで紹介した。

（資料1）理学部案内（スペクトラ）

理学部案内 2024 の表紙と目次



理学部案内 2024 の表紙と目次	
理学部は2024年4月に改組します。	
現 理学部	●数学科 Mathematics ●物理学科 Physics ●化学科 Chemistry ●生物学科 Biology ●自然環境科学科 Natural and Environmental Sciences
5学科が「理学部 理学科」へ 理学科は6つの教育プログラムに	
新 理学部 理学科 School of Science, Department of Science	国際コース
●数学科プログラム Program of Mathematics 数学に関する深い学びにより、数学的な思考力を養い、社会の様々な要求に対応し得る思考力を養うとともに、理学に関する幅広い教育により、数学が必要とされる多様な分野において活躍できる人材を育成する。	国際コース 理学の専門分野の知識や技能を身に付けるとともに、国際的な視野で課題解決に取り組む、専攻領域で活躍できる人材を育成するために、専攻領域の各プログラムに国際コースを設置し、語学力と国際性を身に付ける教育を行う。これによって、知識吸収や活躍できる人材を育成する。
●数理情報学プログラム Program of Mathematics and Informatics 基礎的な数学を基盤として、データサイエンスの能力を養育するとともに、理学に関する幅広い教育により、現代の高度社会の様々な要求に対応し活躍できる人材を育成する。	
●物理学プログラム Program of Physics 自然の仕組みを理解するために不可欠である物理学を基盤から高度に習得し、物理学の広い視野に基づいて、国際的な能力及び応用力を培うとともに、理学に関する幅広い教育により、社会に貢献できる人材を育成する。	
●化学プログラム Program of Chemistry 自然の仕組みを理解するために不可欠である化学を基盤から高度に習得し、化学の広い視野に基づいて、国際的な能力及び応用力を培うとともに、理学に関する幅広い教育により、社会に貢献できる人材を育成する。	
●生物科学プログラム Program of Biological Science 生物学の専門知識を基盤として、生命科学分野の応用的知識と技能を習得し、生命現象の理解と多様な分野の発展に貢献するための能力を培うとともに、理学に関する幅広い教育により、社会に貢献できる人材を育成する。	
●自然環境科学プログラム Program of Natural and Environmental Sciences 物理学、化学、生物学、地球科学を基盤とした環境科学について学び、地球環境の保全と科学の発展を通じて理解するとともに、理学に関する幅広い教育により、環境科学の発展に貢献して社会に貢献できる人材を育成する。	
CONTENTS	理学部入学者入力の方針 01 RESEARCH TOPICS 21
理学部の4年間 03 大学開校施設 22	
理学部の特色 05 データが語る富山大学理学部 23	
大学院への進学 06 理学部の学生インタビュー 25	
●数学科プログラム 07 教育・支援制度・取得資格等 26	
●数理情報学プログラム 09 キャンパススケジュール 27	
●物理学プログラム 11 理学部イベント情報 27	
●化学プログラム 13 研究者レポート 28	
●生物科学プログラム 15 富山大学ってどんなところ? 29	
●自然環境科学プログラム 17 入試情報 30	
教員研究テーマ 19	
CONTENTS	92

2.3.6 令和5年度 理学部入試委員会活動報告

入試委員会委員長 柘植 清志

1. 委員会開催日

令和5年4月19日(第1回)、5月11日(第2回)、6月9日(第3回メール会議)、7月11日(第4回)、8月7日(第5回)、9月11日(第6回)、11月6日(第7回)、令和6年3月18日(第8回)の計8回開催した。

2. 委員長及び全学入学試験委員会等委員の選出

入学試験委員会委員 柘植清志

電算処理専門委員会委員 柘植清志、川部達哉、今野紀文

アドミッションセンター会議委員 島田 互

3. 令和5年度入学試験委員会年間計画の作成

審議のうえ、教授会に付議した案件

- ・令和6年度第3年次編入学試験実施マニュアル(案)(5月17日)
- ・令和6年度第3年次編入学試験要項(案)及び同実施要項(案)(5月17日)
- ・令和6年度入学者選抜要項(案)(5月17日)
- ・令和6年度入学試験成績一覧表(案)及び電算処理仕様書(案)(6月14日)
- ・令和6年度特別選抜学生募集要項(案)(7月12日)
- ・令和6年度理学部総合型選抜学生募集要項(案)(8月9日)
- ・令和6年度一般選抜及び私費外国人留学生選抜学生募集要項(案)(8月9日)
- ・令和6年度理学部第3年次編入学第2次募集日程表(案)及び同募集要項(案)(9月13日)
- ・令和6年度総合型選抜要項・実施要項(案)(11月8日)
- ・令和6年度富山大学理学部特別選抜要項(案)及び同実施要項(案)(11月8日)
- ・令和6年度第3年次編入学(第2次募集)試験要項(案)及び同試験実施要項(案)(11月8日)
- ・令和7年度理学部第3年次編入学学生募集要項(案)(令和6年3月18日)
- ・令和5年度活動報告(案)

4. 入試関連懇談会等への教員派遣

- ・高等学校と富山大学との入学試験に関する懇談会(7月25日、於富山大学、松田恒平、柘植清志)

5. 受験者数と入学者の質の維持向上に関する検討

学部改組に伴う新入試制度の下どのように受験者数及び入学者の質を担保していくかについて、以下の点を中心に意見交換を行った。

- ・全学および学部 HP での発信について
- ・高等学校と本学との入学試験に関する懇談会での学部説明内容について
- ・オープンキャンパスにおける理学部全般の説明および各プログラムの説明内容について
- ・全学アドミッションセンターおよび広報委員会との連携

2.3.7 理学部就職指導委員会

就職指導委員会委員長 野崎 浩一

就職活動時期の変更，求人状況の変化などに伴い，学生への就職支援をさらに充実させることが求められている．そのために就職指導委員会として以下の活動を行った．

1. 理学部3年生を対象にしたキャリア支援ガイダンスの開催

4月26日(水) 13:00～14:30 会場：理学部多目的ホール

- ・金山 立典氏（就職・キャリア支援センター）「富山大学の就職・キャリア支援について」
- ・野崎理学部就職指導委員長 「2022年度理学部卒業生の進路」
- ・村田 恭平氏（株式会社リクルート）「4月から始める就活スタートアップ講座」

10月11日(水) 13:00～14:30 会場：理学部多目的ホール

- ・井上 尚氏（株式会社リクルート）『理工系ならではのキャリア選択』～専攻の活かし方～

2. インターンシップへの取り組み

インターンシップ希望者に対してインターンシップを行うにあたって、就職・キャリア支援センター主催の下記のインターンシップマナー講座に参加するように指導した．

6月28日(水) ①13:00～14:30 ②14:45～16:15 会場：共通教育棟 C11

3. 理学部就職説明会の開催

10月25日(水)14:45～15:45 会場：理学部多目的ホール

- ・就職内定者による就職活動体験談発表
平尾 周子さん（理学部生物学科）
野村亮介さん（大学院持続可能社会創成学環）
- ・野崎就職指導委員長「就職実績の現状と今後の対応について」

4. キャリア支援授業（理系キャリアデザイン講座）の開講

11月1日から2月7日の水曜3限に、主に学部2年生を対象とした理系キャリアデザイン講座を8回開講した。理学部同窓会や理学部各学科の協力により理学部OBなどの社会人講師を招いて、就職先を決定した動機、実際に働いてみたときの経験談など通して、理学の学士としての知識、技術、能力をどのように社会で役立てているかなどについて講義してもらった。67名が受講した。

5. その他

- ・就職指導委員会の開催（2回），富山大学「就職の手引き」の配布など，これまで行われてきた委員会活動を継続して行った．
- ・大学コンソーシアム富山主催の「県内企業訪問事業」のトップシェアコースの参加学生に対し、事前研修(9月5日、横畑委員)と企業訪問の引率（9月8日、野崎委員長）業務を行った。

2.3.8 理学部学生生活委員会

学生生活委員会委員長 小林 かおり

はじめに

本委員会は、学部学生に加え、大学院生や外国人留学生を含む本学理学部に在籍する学生が大学に入学してから社会に巣立つまで、心身共に健康な生活を送るため、就学および生活に関する支援を行う。この支援には、大学生活上のさまざまな問題や悩み、福利厚生に関する相談事なども含まれる。また学生が主体となって開催するサイエンスフェスティバルの支援、全学の学生支援センター会議と連携してクラブ活動の支援、奨学支援活動も行う。本年度の主な活動内容は以下の通りである。

1. 委員会開催日

第1回 4月26日 第2回 7月24日
第3回 9月22日 第4回（メール会議） 11月24日～12月4日
第5回（メール会議） 1月22日～26日 第6回 2月21日
第7回（メール会議） 3月11日～13日

2. 学生生活に関するFD研修会の実施

3月5日(水) 13:00～13:30に、「現行の修学支援新制度及び令和6年度以降の制度改正について」という演題で、教職員を対象とした講演会をオンラインにて開催した。学生支援課（学生生活相談員）の鳥海衣美子様をお願いし、理学部でも利用者の多い学生支援機構による従来の制度の奨学金からの変更点と今後の改正事項について説明を頂いた。理学部では改組により2年生への進級時への留年が設定されるようになり、もし留年すると対象外となること、また単位数が非常に少ない場合返還することになることなども説明された。

3. 「助言教員の留意事項について」・学生生活委員会の内規の改訂

改組により、1年生は理学科所属で、プログラムには所属しないこと、セメスター制からカリキュラム制に変更なること、2年次以降はプログラムの所属になることから、必要な改定を行った。学生生活委員会の内規についても同様に必要な修正と、委員の交代の際に約半数の委員が交代になるように変更を行った。

4. 防犯および消費生活知識に関する講習会

富山西警察署および富山県消費生活センターから講師をお招きし、1年生を対象に、防犯および消費生活知識に関する講習会を令和5年7月12日に実施し、受講後にはレポートの提出を課した。

5. サイエンスフェスティバル 2023 の支援

本年度のサイエンスフェスティバルは9月23日(土)、24日(日)の2日間に亘り対面で開催された。学生生活委員は、各学科の事故やトラブル発生時の対応支援のため登校し、巡回や連絡待機を行なった。学生による実験展示(科学実験ブース)企画、サイエンスカフェ企画などが、学生を主体として企画運営された。2日間とも事故の発生もなく、全企画行事を予定通りこなして盛況の内に終了した。

6. 留学生に対する支援

令和4年度に審議承認された令和5年の「全学的共通経費(外国人留学生経費)による外国人留学生支援事業」の企画公募に工学部、理学部、都市デザイン学部の共同企画提案(外国人留学生実地見学旅行)が採択され、9月14-15日に実施された。理学系教員の指導学生からは大学院生3名が参加し、教員1名(岩村)が引率として参加した。

7. その他

学生の学修と生活に対するサポート体制の充実と、定期面談等を介した学生の修学生活指導の確実な実施が全学的に求められている。助言教員による年2回の定期面談の実施率を学期毎に複数回、学科ごとに集計した。その結果を学生生活委員会委員に報告し、面談実施率向上に向けての情報提供を積極的に行った。

8. 次年度への継続課題

防犯および消費生活知識に関する講習会は、新入生が受講しやすいように、入学時に受けることができるように変更した。

留学生支援については、「全学的共通経費(外国人留学生経費)による外国人留学生支援事業」など全学では国際機構、工学部および都市デザイン学部では国際交流委員会が担当しているため、本事業の申請や実施の主体や役割分担について、国際交流委員会と学生生活委員会の間で協議を開始したが、今後継続して検討する必要がある。

著作権及び知的財産所有権保護に関する説明会についてオンライン実施の準備が遅れたため、実施を逃したため、実施した資料を活かして、次年度は早期に実施する予定である。

2.3.9 理学部国際交流委員会

国際交流委員会委員長 畑田 圭介

はじめに

国際交流委員会では、理学部の国際交流を推進するために、必要な諸課題について継続的に検討しつつ必要な業務を実施した。具体的な活動は以下の方針に基づいた。前年度から継続し委員会の年度計画に記載されている活動を推進する、今後重要と考えられる案件について検討する。昨年度までは、短期語学研修や留学生説明会などが新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったり、オンラインで開催されたりするなど、例年通りの活動ができなかった一方で、コロナ禍、アフターコロナの新しい国際交流事業が執り行われるようになり、国際交流活動が再開され始めた。

1. 委員会開催日

- 第1回 4月5日
 - 第2回 4月26日～27日
 - 第3回 6月19日～22日
 - 第4回 7月4日～7日
 - 第5回 7月24日～27日
 - 第6回 11月8日～14日
 - 第7回 12月22日～25日
 - 第8回 2月14日～16日
- (第2回～8回はメール会議として開催)

2. マレーシア（トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学, UTAR）での英語研修の実施

本学部が主体となり平成26年度に開始したマレーシア・UTAR（トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学）での短期語学研修は、4学部（理学部・工学部・経済学部・都市デザイン学部）による共同実施プログラムとして実施していたが、一昨年度からは、全学の語学研修として実施することになった。本年度は、11月に学長とともに理学部教員が訪問し、そして3月にも理学部教員が訪問し国際コースの学生が訪問した際の具体的な授業の内容について議論を行った。6月には学生たちのUTARの学生たちの訪問があり、理学部教員で理学部の案内を行った。

3. 学生の海外派遣、留学生の受け入れ事業の推進

令和6年度海外留学支援制度（タイプA）には、「未来の国際的研究者育成を目的とした研究型欧州派遣プログラム」を理学部物理畑田が申請し採択された。

令和5年度海外留学支援制度（タイプB）「欧米諸国における持続型基礎研究留学プログラム」により、大学間協定先の西ボヘミア大学へ学部学生1名、大学間協定先のカメリーノ大学へ博士1名、部局間協定先のレンヌ大学へ修士2名を派遣した。

「HORIZON-MSCA-DN」により大学間協定先のカメリーノ大学から博士1名、部局間協定先のレンヌ大学から博士1名をインターンシップにより（2024年2月～3月）受け入れた。

富山大学五福キャンパス国際交流事業基金「令和5年度〈前期〉学生海外渡航補助事業」に学生3名(修士1, 学部生2)を推薦した。

令和5年度の全学的共通経費（外国人留学生経費）による外国人留学生支援事業に以下の2件

の企画を申請し1件採択された。

- ・外国人留学生の人的学修就職支援経費（執行額：250千円，配分額：250千円）
- ・大学院留学生の”研究の質”向上に資する洋書専門図書の購入・整備（執行予定額：200千円，配分額：0円）

令和5年度「外国人留学生のためのオンライン富山大学進学説明会（9/21）」に参加した。昨年度に引き続き、理学部への申込者5名に対し、倉光、中町、畑田が対応した。

4. 大学間・部局間学術交流協定の締結

「西ボヘミア大学との大学間学術交流協定締結」「チェコ科学アカデミーとの大学間学術交流協定締結」「インドネシア共和国ジェンデル・ソディルマン大学との大学間学術交流協定締結」「タイ キングモンコック大学ノースバンコク校との大学間学術交流協定締結」「マレーシア・マラ工科大学との大学間学術交流協定締結」「カナダ セルカークカレッジとの大学間学術交流覚書締結」「アメリカ・カリフォルニア州立大学サンマルコス校との大学間学術交流協定締結」について、審議し、了承した。

5. 昨年度からの引き継ぎ課題および次年度への引継ぎ課題

来年度より始まる改組に伴う国際コースの運用に伴う海外研修への連携について、対応を検討する必要がある。特に、本学が力を入れて交流に取り組んでいる UTAR との連携について、今後の方針を考える必要がある。

2.3.10 理工学教育部修士課程理学領域部会教育委員会

委員長 森脇喜紀

1. 委員会開催日

7月7日(第1回), 1月11日(第2回, メール会議)

2. 令和5年度の取り組みと成果

(1) 大学院生を対象とした研究者倫理教育

- ・未受講の学生には本学発行の「学生の皆さんへ 研究倫理とは」を読ませ倫理教育を行うこととした。

(2) 修士論文審査に係る業務

- ・令和5年9月および令和6年3月修了予定者の修士論文審査委員の選出について審議し、教授会に附議した。

(3) 令和5年度学部プロジェクト・データサイエンス教育の推進について

- ・理学系学生のための情報科学講習会を3月に実施した。大学院生・学部生 25 名が登録・参加した。以下に実施内容を示す。以下に実施内容を示す。

時間	内容	会場	担当
3月1日(金) 3,4限	Python 入門(プログラミング) 1. Python 入門 - エディタと端末の操作 - エディタで Python プログラムを作成し端末で実行する - Python 入門 (小さい関数の組み合わせとしてのプログラム) - Python 入門 (クラスを用いたプログラム) - Python の標準モジュールの使い方 2. いまどきのプログラミング環境 - PEP8 と linter - venv を用いた仮想環境 - unit test - Markdown でドキュメントを書こう - Git を使ってバージョン管理しよう - Github の使い方	理学部端末室	木村

3月4日(月) 2,3,4限	ラズパイと OpenCV を用いた画像処理プログラミング 1.講義 - 画像処理に関するデータ構造と色のデータ形式 - 二次元デジタルフィルタ 2.実習 - 塗りつぶし、単色画像、色分解、グレースケール化などの基本操作 - 二次元デジタルフィルタ（平均、ガウシアン等） - CCD カメラからの画像取込みとリアルタイム解析 - マスクによる画像情報の抽出 - 物体の輪郭、面積、重心座標	C302	野崎
3月5日(火) 2-4限	生成系 AI の体験実習(文章生成, プログラム生成, 画像生成) Python による統計処理 統計処理, 平均, 主成分分析, クラスタ分析	理学部端末室	栗本
3月6日(水) 3,4限	特異値分解 - 特異値分解, 主成分分析による次元削減 - 特異値分解, 主成分分析と画像処理 OpenCV の事例紹介 魚の追跡プログラム	C302	上田
3月7日(木) 3,4限	Excel を用いた方程式の数値解の解法/最小 2 乗法 - 線形方程式や非線形方程式の数値解を求める基礎的な方法としての二分法, ニュートン - データ解析法としての最小 2 乗法のプログラミング	理学部端末室	森脇
3月8日(金) 3,4,5限	ラズパイを用いた IOT プログラミング 1. デジタル信号の制御 スイッチを押して LED チカチカ 2. パルス幅変調 (PWM) によるアナログ制御 - LED 調光 - モーター制御 3. Time-of-Flight(ToF)による距離計測 4. センサーとのシリアル通信 - CO2 濃度計 - 非接触温度センサー - アナログ-デジタル変換器(ADC)を使った計測器 5. 自由制作	C302	野崎